施設名：**港区立檜町公園**　　調査者：中山裕子
所在地：港区赤坂９−７
種別：公園（区立）　管理者：港区
調査日時：2003年12月27日14時〜16時　　天気：晴れ

● **着眼点**

もう１つのレポートでみた六本木ヒルズ周辺の西麻布・六本木地域がどのような地域であるか、また赤坂９丁目の防衛庁のあった地域が広大な跡地となり新たに開発されつつ（写真１）あるが、そこはどのような様相を見せているかを知るため、防衛庁跡地隣の檜町公園、またその周辺の小公園で定点観測を行った。

● **周辺の特徴　—防衛庁跡地—**

六本木駅から北に進むと、外苑東通りは道幅が広く両脇に３，４階建てのビルが並ぶ大通りだが、道を入ると比較的静かな住宅地であり、白っぽい綺麗なマンションの並ぶ地域である。

防衛庁跡地は現在基礎工事が行われていて（写真２，３）近くの六本木ヒルズの展望台から見るとそこだけすっぽりと物がない感じがする。周囲は白い壁で囲われ、入り口付近にだけ防犯カメラが設置されている。また入り口部分には沢山のポスターや連絡事項が貼られている。開発業者からの開発の詳細についての掲示（写真４）だけでなく、周辺自治体が美化を呼びかけているポスターが多いのが目に付いた（写真５）。六本木ヒルズでの六本木６丁目市街地再開発組合といい、地域開発に対する住民の関心の強い地域という感じを受けた。この辺りの道を歩いていてとにかく感じたのは、とても静かで清潔ということである。工事の音がするのも外苑東通りに面したトラックの出入り口だけで、他のところではたとえ跡地に接していてもとても静かだった。また周囲の道では壁の落書きは皆無で、ごみ１つ落ちていないのが印象的だった。

● **施設の特徴**

坂がちな地形のため南側の道路からは階段を下りて入る公園で、右側に遊具やベンチのあるスペース、左側は釣りのできる池と２つに分かれている。非常に広々とスペースが取ってあり、周囲には木が植えられているが日当たりがとてもよい。園内にあった沿革案内によると、この公園を含む一角は江戸時代には長州藩の下屋敷であり、檜の木が多かったことから「檜屋敷」と呼ばれていたのが檜町というのちの地名の由来だそうである。明治４年に国の管理地となり、明治７年から第２次世界大戦が終わるまで歩兵隊の駐屯地として利用された。戦後一時米軍の接収地となったが、区立公園として管理されるに至った。

● **利用の特徴**

遊具のある部分は遊んでいる親子連れが３組程度、池の部分では年配の釣客が 10 人前後（写真６）、常に利用していた。彼らの間に交流はないようだったが、親子連れ同士、釣客同士の間柄はすでに顔見知りらしく、言葉を交わしたり一緒に遊んだりしていた。数時間この公園にいたが、利用者達の様子は多少出入りがありこそすれずっと変わらず、ここに来ることが彼らにとって日常であることが推察された。ここにおいても釣り池は跡地と接しているが非常に静かだった。また興味深かったのは、子供たちの遊んでいる遊具のすぐ隣のベンチがホームレスの生活場所となっていたことである（写真７）。遊んでいる子供やその親が意識したり嫌がったりすることもベンチ周辺や公園のゴミ箱の周囲が汚れているようなこともなく、そこでも静かで清潔な空間が保たれていて、本来ホームレスだからといって排除されたり周囲に悪影響を及ぼすとは言えないはずなのに、不思議な感じを覚えた。

● **管理の特徴**

掲示物は全部で 3 種類あった。ひとつは北西の入り口近くにあった沿革の案内の掲示であり、あとは２種類で書かれた利用上の注意である。利用時間の決まり、監視、閉鎖などはないようだった。利用上の注意の札のうち、ひとつは犬を連れた利用客に対し日本語・英語・ハングル語で書かれたものであり（写真８）、もうひとつは絵入りで花を折らないこと、遊具を安全に使うことなどの利用のマナーを書いたものだった。

● **周辺の小公園２ヶ所の観察**

この周辺は檜町公園が長州藩下屋敷の一角だったように、かつての屋敷の一部分を残した小さな公園が点在している。それらの殆どは檜町公園ほどの大きさはなくただ単に街の一角に簡単な遊具やベンチ以外何もない小さなスペースがあるだけで、かつて屋敷跡だった痕跡は殆ど見られないが、道で何度か見つけた周辺地図では散歩道として紹介しているようだった。

（桑田記念児童遊園）

大きな通りに面した明るい小さな公園だが、奥行きは広い。（写真９）ここも古い屋敷の跡地だったようだが、それを伺わせるものは何もなかった。入り口付近に藤棚のようなものがあり、その奥にはあずまややベンチが置かれていた。30 分程度観察したが、その間には普通の身なりの若者が１人煙草を吸っているだけだった。待ち合わせをしているようすもなく手持ち無沙汰な様子だった。

（六本木西公園）

六本木通りから１本奥に並行に走った道沿いにある公園である。ここは屋敷だった跡が偲ばれるよう、かつての門構えを公園の入り口にそのまま使っている。（写真 10）そのように風情のある、奥行きの広い公園なのだが、人の余り通らない細い道に面していること、大通りである六本木通り・外苑東通りも車道で余り雰囲気がよくないこと、少し離れてはいるが公園と大通りとの間の一帯はディスコやパブ、風俗店が並ぶ一角であること、周囲を囲むビルの日陰になっていること、中は広々としているのに門構えがあるために中の様子が良く見えないことから、入りづらい、日が暮れてくると少し怖い感じのする場所となってしまっていた。利用者は近くの店で働いているとみられる中年の男性が２人、コートを着ずに軽装で煙草を吸っていただけだった。

どちらの公園も、時間や閉鎖などの管理はないようであり、この地域のいろいろな場所を見て感じたように非常に清潔である。しかし、檜町公園以外は暗い感じがするせいか利用者が殆ど見られず、市民や家族連れの憩いの場所としてではなく、若者や大人が時間をつぶしたり煙草を吸ったりするだけの場所となってしまっており、そのことが更に人を遠ざけているように感じた。